

ぬ光景を呈している。私はきばって左側の水際を登ったが、ほかの二人には安全な右側を登ってもらった。

ここから上は一転して藪っぽい河原となり、そのまま二俣となる。水量の多い右沢に入る。

しばらく河原をゆくと、ちょっとした広場となった。左岸は台地状の雑木林となっている。ここを過ぎると、沢は蛇行する堀のような狭い藪沢となる。倒木でつまった流を越すと、狭いながらも滑状の沢筋となった。

このまま終わるのかなと思いながら登ってゆくと、急に沢がひらける。一瞬、中州かと思ったが、よく見ると滝ではないか。7m程の広い赤滑滝だが、その中央部には立派な(?)藪が発達していて、その両側を水が2条に流れていたのだった。

この上もずっと滑床が続いていたが、高度を上げるほどに狭くなり、加えて藪がひどくなっていった。

(記・ )

[タイム] 出合(14:45)→遊行終了(17:25)

支沢

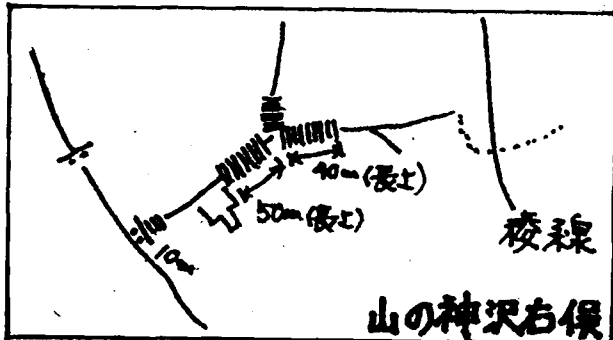
### 山の神沢右俣(下降)

1985年10月19日

和

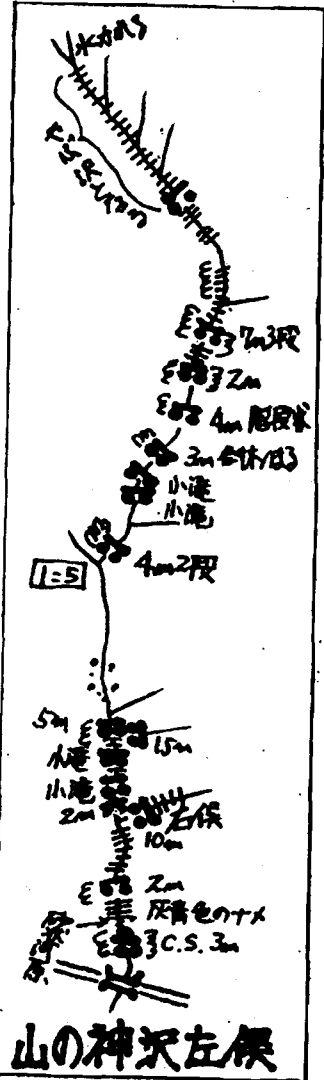
大沢遊行終了後、稜線より山の神沢右俣の源頭部めざして下降する。しばらく藪をこいで、沢の頭に出る。

かなりの急勾配で下降していくと、長いナメ床の下りとなった。このナメ床は山の神沢左俣出合まで連続し、左俣出合には10mのナメ流のおまけ付きであった。



左俣出合に着いたあたりから、雨がポツリ、ポツリと降り出してきた。帰路を急ぐことにする。(記・ )

[タイム] 稜線(15:40)→下降開始(15:45)→左俣出合(16:00)



→林道(16:10)

### 浮小屋沢

1985年6月29日

L

浮小屋沢には、中津川林道にかかる8号橋を降りて入る。すぐに小滝があり、4mの滝が2本続く。まあこんなものだろうと、先に進む。

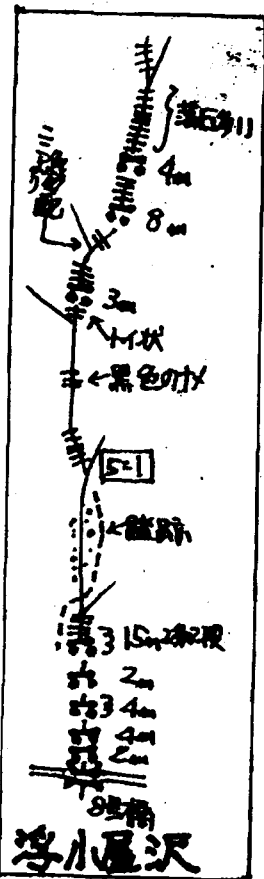
まもなく沢幅がひらけ、15mはあろうかと思われる立派な2段滝にでくわした。幸い斜瀑で、上段の左側はトイ状となっており、水は2条になって流れている。沢登りの経験の少ない高橋先生は大丈夫かなと心配したが、なかなかどうして、ワラジのフリクションを使って、あぶなげなく直登してくる。

滝の上はトイ状のナメが続き、これは意外にも当りの沢かなと思いきや、あとは二俣まで平凡な藪河原であった。水量の多い左俣に入る。

しばらくはナメまじりの河原が続くが、沢床の色は灰青色から黒に変わる。この先沢は急に勾配を増す。8mの赤い滝を越すと、上は傾斜のきついナメが続き、高度を上げるほどに落石にうまり、沢はついに藪に隠れてしまった。

(記・...)

[タイム] 8号橋(15:00)→二俣(15:40)→遡行終了(16:30)



### 黒滝沢

1985年6月23日

L

烏川林道のゲート手前に車を置き、身仕度して歩きはじめる。黒滝沢にかかる第3号橋までは20分程で着く。

8:50遡行開始。小滝をいくつか越していくと、さっそく20mはあろうかと思われるF<sub>2</sub>にぶつかる。この沢にはこれ以上の大きさをもつ滝はなく、沢の名前にもなっている黒滝ではないかと思われる。水量はそう多くないものの、2段になって落ちる様は見事である。福島キャノン山の会の記録によると、左岸を直登できるということであるが、ヌルがついているのでいやらしい。私達は右岸の草付を